



《22. 10. 29 第174号》

健民運動 かわら版



<ホトトギス>

発行:石川県健民運動推進本部
金沢市鞍月1丁目1番地
県民文化局県民交流課内
TEL 076-225-1365

ホームページ

健民運動

検索

(E-mail) kenmin-i@pref.ishikawa.lg.jp

～毎月7日は「健康の日」です。歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう。～

鼓動

「子どもに明るい夢を」

石川県児童文化協会 理事長 水野 幸

健康体力つくり活動の推進

- ◇2010太陽と緑に親しむ健民祭第43回石川県健康クラブ交歓大会
- ◇第17回能登地区健康クラブ普及育成研修会

環境・文化活動の推進

- ◇第46回花いっぱいコンクール総合審査会実施
- ◇第46回花いっぱいコンクール受賞一覧
- ◇第46回花いっぱいコンクール入賞花壇の紹介
- ◇第39回ふるさとのツバメ総調査について

青少年健全育成活動の推進

- ◇「家庭の日」絵画・ポスターコンクール入賞者決定
- ◇平成22年度少年の主張石川県大会開催

健民運動活動紹介・奨励コーナー

- ◇健民運動表彰式
- ◇花いっぱいのつどい
- ◇NPO法人いしかわ自然体験支援隊の活動報告

健民運動カレンダー

県民ボランティアセンターだより

薫風

「越中五箇山自然教室」

(財)石川県ユースホステル協会 理事 新保 雄希



<家庭の日絵画・ポスターコンクール
最優秀賞受賞作品：9ページ参照>

鼓 動

子どもに明るい夢を

石川県児童文化協会 理事長 水野 宰

表題は、わたしたち会員が、活動にあたり、いつも口にしている言葉である。

石川県児童文化協会(通称・ドウブン、会長中島秀雄)では、今年、「石川の児童文化活動100周年記念事業」を企画している。

明治43(1920)年、東京から久留島武彦が来県し、「お伽講演」を開き、それをきっかけに地元の有志が「金沢お伽倶楽部」を結成して、石川の地で児童文化活動を始めてから100年、今年、平成22(2010)年が記念する年にあたる。

当時、巖谷小波とならんで著名だった児童文化活動家の久留島武彦は、児童文化活動を社会教育推進の一つの核にしようと、「わたしは、いつまでも子どもの膝の前の友でありたい。」を座右の銘に、86歳で没するまで全国を口演行脚して歩いた。書く童話作家より、話す童話作家として知られ、「日本のアンデルセン」とも称された人である。

金沢お伽倶楽部から100年、石川の児童文化推進に関わった先達たちは、地道に児童文化活動の火を灯し続けた。その後を引き継いだドウブンは、戦後すぐ新たに結成され、今も、「いしかわ子ども交流センター(前県立中央児童会館)」を拠点に活動を活発に展開をしている。その活動範囲は、今、児童文化講座の開設、童話作りと口演、児童向けの出版、子どもの俳句や詩づくりの推進、児童劇や人形劇の公演活動、音楽や科学部門の活動、各種児童文化団体との連携、会員の研修など多岐にわたる。

「石川の児童文化活動100周年記念事業」では、ドウブンの戦後の60余年を含め、「金沢お伽倶楽部」からの100年の活動を記録する「石川の児童文化100年史」の編集発行、「100年記念展」など、11月を目処に計画がいろいろ練られている。

100周年を機に、これまでの活動の継続発展と若い会員の育成に、さらに邁進していきたいと、会員一同語り合っている。



<H20.12 童話発表会>



<H22.5 子ども俳句大会>

健康体力つくり活動の推進

◇2010太陽と緑に親しむ健民祭 第43回石川県健康クラブ交歓大会開催

10月5日(火)、いしかわ総合スポーツセンターにおいて、県内の36クラブから2250名が参加して交歓大会が開催されました。

開会式では、大会長の田川修身県健康クラブ協議会長の挨拶に続き、谷本正憲健民運動推進本部長・県知事がアメリカ出張のため、中西吉明副知事から励ましの言葉、山出保金沢市長の歓迎の言葉(代読)がありました。



<励ましのこ
とばを述べる
中西副知事>

<功労者表彰を受賞され
た34名の皆さん>

健康クラブ功労者表彰では、中筋久美子(山中さわやか健康クラブ)さんが受賞者34名の代表として賞状と記念品を受けられ、小崎真由美(穴水町健康クラブ)さんが謝辞を述べました。



<謝辞を述べ
る小崎さん>



<賞状と記念品を
受ける中筋さん>

続いて、歌唱、準備体操、全体演技を行い、各クラブ発表を行いました。



<「石川県民の歌」、「みかんの花咲く丘」を全員で合唱>



<全体演技>



<津幡健康クラブ発表>

◇第17回能登地区健康クラブ普及育成研修会

10月21日(木)午前10時より、内灘町向栗崎体育館において標記研修会が能登地区の21クラブから約120名の参加を得て開催されました。

開会式後の実技研修会では、「健民さわやか体操」で準備運動をし、全体歌唱では、「四季の歌」・「背くらべ」を元気よく歌いました。

集団演技では、来年度の発表に向けた「それが大事」を振りの練習から、1小節ずつ音楽合わせて演技し、最後は全員通しの演技を終えることができました。指導の新村三津子さんとクラブ員の皆さん全員は、心地いい汗をかいて、充実した実技研修会を終えました。



<歓迎の言葉を述べる
西尾内灘町教育長>



<全体歌唱>



<集団演技>



環境・文化活動の推進

◇第46回花いっぱいコンクール総合審査会実施



<プロジェクターを用いた審査会>

標記総合審査会が10月14日(木)、県庁舎において開催されました。

審査会では、現地審査をした際に撮影した写真と採点表をもとに総合的に

(今年度の応募状況)

区 分		件数
A	個人の部	6
B	幼少年の部	10
C	小学校の部	4
D	中学校の部	4
E	高等学校の部	2
F	一般の部(50坪以上:165㎡以上)	6
G	一般の部(49坪~10坪:164~33㎡)	13
H	一般の部(9坪以下:32㎡以下)	10
総 計		55

審査した結果、最優秀賞1件、優秀賞10件、奨励賞13件が決定しました。

また、審査員からは今年の夏の酷暑から水やり等の手入れの困難さを労う言葉が何度もありました。

第46回 花いっぱいコンクール受賞一覧

A 個人の部	(優秀賞2 奨励賞1)		
	優 秀 賞	林 紀子	白山市
	優 秀 賞	中西壽美榮	白山市
	奨 励 賞	中田俊秀・久美子	白山市
B 幼少年の部	(優秀賞1 奨励賞2)		
	優 秀 賞	七尾市社会事業協会ななおあいじ保育園	七尾市
	奨 励 賞	七尾市社会事業協会西湊保育園	七尾市
	奨 励 賞	白山市立蔵山保育所	白山市
C 小学校の部	(優秀賞1 奨励賞1)		
	優 秀 賞	白山市立蕪城小学校	白山市
	奨 励 賞	白山市立白峰小学校	白山市
D 中学校の部	(最優秀賞1 優秀賞1 奨励賞1)		
	最 優 秀 賞	中能登町立鹿島中学校	中能登町
	優 秀 賞	白山市立北辰中学校	白山市
	奨 励 賞	白山市立鳥越中学校	白山市
E 高等学校の部	(優秀賞1 奨励賞1)		
	優 秀 賞	石川県立門前高等学校	輪島市
	奨 励 賞	石川県立鶴来高等学校生徒会	白山市
F 一般の部	(優秀賞2 奨励賞1)		
	優 秀 賞	小松市今江町町内会	小松市
	優 秀 賞	花の会・つるぎ (フラワーロード鶴来)	白山市
	奨 励 賞	北陸日本電気ソフトウェア株式会社	白山市
G 一般の部	(優秀賞1 奨励賞3)		
	優 秀 賞	金平町老人会花びらの会	小松市
	奨 励 賞	下栗津JA女性部	小松市
	奨 励 賞	花の会・つるぎ 林地区	白山市
	奨 励 賞	鶴ヶ丘西公民館	内灘町
H 一般の部	(優秀賞1 奨励賞3)		
	優 秀 賞	JA小松市今江町女性部	小松市
	奨 励 賞	軽海町婦人会	小松市
	奨 励 賞	荒屋町町内会	白山市
	奨 励 賞	知気寺町町内会	白山市

◇第46回花いっぱいコンクール入賞花壇の紹介

最優秀賞（1件）



中学校の部：鹿島中学校(中能登町)

優秀賞（10件）



個人の部：林 紀子(白山市)



個人の部：中西壽美榮(白山市)



小学校の部：蕪城小学校(白山市)



幼少年の部：ななおあいじ保育園(七尾市)



中学校の部：北辰中学校(白山市)



高等学校の部：門前高等学校(輪島市)



一般の部：小松市今江町内会(小松市)



一般の部：花の会・つるぎ(白山市)



一般の部：金平町老人会花びらの会(小松市)



一般の部：JA小松市今江町女性部(小松市)

◇第39回ふるさとのツバメ総調査について

今年度の「ふるさとのツバメ総調査報告書」ができあがりました。

調査にあわせて募集した「感想文」では5名が入賞しました。その中の優秀賞の作品を3点紹介します。



<今年度の報告書>

ツバメ調査

能登町立真脇小学校 6年 佐藤 桃香

「あ！あっちにツバメおるよ。」

ツバメ調査が始まった時、さっそくツバメの巣を発見することができました。

そのツバメの巣はとても工夫がしてあってお店の看板と、のき下の間に巣を作っていました。これなら、カラスやヘビにおそわれることはありません。

私は、「最近のツバメは頭がいいな。」と思いました。

さらに調査を進めていくと、ある家の倉庫に30個以上のツバメの巣がありました。

その倉庫の持ち主の人は、「昔はもっとツバメがこの倉庫に来とったけれども、最近

は昔と比べてとてもツバメが減ってしまった。」とさみしそうに言っていました。私は、これだけツバメの巣があるのに、昔は、もっと来ていたと聞いてとってもびっくりしました。それと同時に一つのツバメの巣はおわんくらいの普通のサイズなのに、もう一つはたてに長いとても大きな巣があることに気づきました。

どうして、このような巣ができたのか聞いてみました。すると「最初のツバメの巣は、おわんくらいのふつうの大きさだったけど。次に来たツバメがまたその下に巣を作って、それが4年間ぐらい続いて、こんなツバメの巣ができたんだよ。」と倉庫の持ち主の人が教えてくれました。

こんな話は初めて聞いたので、とてもおどろきました。そして、こんなにもツバメを大切にし、見守っている人がいるんだなあと思いました。来年は今年より、もっと多くのツバメが来てほしいと思いました。

ツバメ調査で学んだこと

志賀町立加茂小学校 6年 酒井 安優

私は、前まではツバメがきらいでした。というのは以前巣が車の上にあって車がフンだらけになったからです。

だから、ツバメ調査をする時、地域の人「ツバメを歓迎していない。」に答えると思っていました。

ツバメ調査をしていて、地域の人に「ツバメを歓迎していますか？」と聞くと、地域の人「歓迎してないよ。フンとかするから毎年困っているんだ。」とちょっとおこりながらいました。

「ほら、やっぱり」と思いました。

私は「ありがとうございました。」を言うと自転車をこいでつぎの家に向かいました。私は自転車をこぎながら「やっぱり、ツバメを好きな人なんていないんだ。」と思っていました。でも次の人の所へいくとまた私は「ツバメを歓迎していますか。」と聞きました。「どうせさっきと同じ答えなんだろうなあ。」と思っていたけど、その人は「歓迎しているよ！」と言いました。

私はびっくりして「どうしてですか?。」と聞きました。するとその人は「ツバメは、かわいいし、孫みたいだからだよ。」と答えました。ものすごくびっくりしました。

そして次の人の家に行くと次の人もさっきと同じように「歓迎しているよ。」と答え

ました。私が「なんでですか？」ときくとその人は、「今年はツバメが来ないと思ったけど、来てくれて、うれしいよ。ツバメはフンとかするから少しいやだけどみんなを笑顔にできる、素敵なお鳥だからだよ。」と言いました。

私は「ありがとうございました。」をいうと急いで次の家に向かいました。次の人もさっきと同じ答えでした。

それからけっこう回ったけど何人も同じことを言っていたので私はうれしくなりました。私の気持ちは、ツバメ調査をする前とした後では気持ちが大きく変わった事に気がつきました。する前は、ツバメはフンとかするのでいやだったけど、今は、「ツバメがいることでみんなを笑顔にできる。」「ツバメといるとみんながうれしい気持ちになれる。」そう思うとツバメと仲良くなれるような気がしてきました。

ツバメは自然豊かな所にしかいません。だから加茂にいつまでも、いつまでもいてね。

私たちとツバメとの深い関わり

志賀町立加茂小学校 6年 山口 莉奈

私は、たくさんのツバメと会えることを楽しみにして、ツバメ調査へむかいました。

今年も、やって来たツバメが、元気よく、「ピー」と鳴いていました。とても元気がよかったです。うれしくなりました。

そして、一軒の家に行ったとき、おばあちゃんが、話をして下さいました。

「ツバメは、歓迎するというか、家族やと思っとるよ。そして、ツバメも、どんなに子どもたちがさわいでいても、それを受け入れたように、いつでも巣の中にいるから、ほんとに家族やよ。」と、巣を見ながらうれしそうに話して下さいましたので、私もうれしくなりました。

他の家では、ツバメ調査へ行ったことで、ツバメが入れるように窓を開けて下さった家もありました。

でも、ツバメの巣の数は、去年よりも、少なくなっていて、ツバメがいなくならないかとても心配になりました。

ツバメは、人間と、よくかかわりのある鳥なので、いなくなってほしくないと思いをしました。地域の人たちは、ツバメが来なくなったら、とても心配で、どうしたのかなど不安になるそうです。ツバメは、私たちにとって、すごく大切な鳥なので、また来年も私たちの所へ来てほしいです。そして私たちも、そのツバメたちを受け入れ、ツバメたちに巣をつくる場所をつくってあげたいです。

ツバメは私たちにとって家族であり、とても大切な存在なので、これからも、ツバメと私たちはおたがい関わり合い、仲良くしていきたいです。

10月23日(土)、名古屋市科学館・サイエンスホールにおいて、環境省生物多様性センター主催のCOP10パートナーシップ事業『「いきものみつけ」シンポジウム』が開催されました。

参加型生物調査に取り組んでいる自治体、団体が集まって、調査で得られた生物情報の役立て方について語り合うものです。当健民運動推進本部は、「ふるさとのツバメ総調査」について15分間の事例発表をしました。詳細は、次号でお知らせします。

青少年健全育成活動の推進

◇家庭の日」絵画・ポスターコンクール入賞者決定



10月18日（月）県庁舎において標記コンクールの審査会を行われました。小学生からは、317点、中学生は64点、計381点のご応募をいただきました。ご協力ありがとうございました。

<一枚ずつ検討する審査員>



最優秀賞「パパとこうたとママとのにっこりえがお」
金沢市立諸江町小学校1年
坂口 耕太



優秀賞「ひいおばあちゃんのとこやさん」
金沢大学附属小学校2年
東 遼太郎



優秀賞「家庭の日ポスター」
津幡町立津幡南中学校2年
川端 美緒



佳作「家族で行ったけんみんプール」
金沢市立栗崎小学校2年
竹内 裕紀



佳作「せんたく物をたたみながら家族団らん」
加賀市立南郷小学校3年
山下 雅也



佳作「お母さんと白山へ登ったよ」
金沢市立栗崎小学校3年
堀内 芽衣



佳作「弟と水やりのてっだい」
羽咋市立瑞穂小学校3年
山本 拓未



佳作「おいしい野菜しゅうかく」
羽咋市立瑞穂小学校4年
平野 生純



佳作「家族で演奏会」
輪島市立河井小学校4年
新家 陽奈子



佳作「家族旅行」
金沢市立栗崎小学校 6年
中室 真理子



佳作「小さな家族だんらん」
白山市立光野中学校 1年
富田 未来



特別賞 「家族」
県立金沢錦丘中学校 3年
越田 斐

◇平成22年度少年の主張石川県大会開催

10月2日（土）県青少年総合研修センターにおいて今年度の少年の主張県大会が開催されました。

県内4カ所で実施された地区大会の代表15名の中学生が堂々と発表しました。いずれの主張も中学生らしい感性にあふれた素晴らしいもので、会場は、さわやかな感動に包まれました。

結果は次の通りです。



<発表者全員の記念写真>

賞	学校名	学年	氏名	演題
最優秀賞	七尾市立田鶴浜中学校	3年	升田 晴華	友だちの木
優秀賞	能美市立根上中学校	1年	小酒 夏穂	世界中の笑顔のために
優秀賞	白山市立鶴来中学校	3年	鳥越 美来	努力すること

最優秀賞を受賞された、七尾市立田鶴浜中学校3年升田 晴華さんの主張を次ページに掲載しました。



<最優秀賞受賞の升田さん>



<優秀賞受賞の小酒・鳥越さん>

友 だ ち の 木

七尾市立田鶴浜中学校 3年 升田 晴華

田鶴浜中学校には、友達の木があります。それは、いいとも月間の取り組みの時、私が提案したものです。なぜなら、浜中を明るい学校にしたいと思い、友達のいいところを見つけ、言葉にすることを考えたからです。

私は小学校の時、言葉で傷ついたことがあります。それは、「あいつ無視しよ、きもいし。」「約束したんに、なんでしゃべったん。」という言葉が私の耳に入ってきたのです。一瞬なんのこともわからずに、目の前が真っ暗になりました。と同時に、隣にいる友達が信じられなくなりました。その日から、私の周りには友達がいなくなり、教室にいることがだんだん辛いと感じるようになりました。学校に行きたくないと思うこともありました。しかしそんな私に母は、

「きっと誰かが気づいてくれるから、もう少し頑張ってみたら。」
と言ってくれました。

その言葉を信じて、勇気を持って声をかけてみました。

「おはよう。」

すると、

「おはよう。」

とあいさつをかわすことができたのです。その時、あいさつ一つでこんなにも気持ちが明るくなったことは、言うまでもありません。教室でも、何人もの人とあいさつをかわし、今までの一人ぼっちの時間がうそのように感じられました。

すると、後ろのほうで、

「ちょっと、調子にのってない？」

という声が耳に入ってきました。そのとたんに、今まで私と話をしていた何人かの人が、話すのをやめ、席に戻っていったのです。

その時から、私の周りには友達が一人もいなくなり、その場にいることさえ、耐えられない時間が多くなっていったのです。

暗くて落ち込んだ日々が続いたある日、

「おはよう。」

と、あいさつをする友達がいました。

でも、私の心は複雑でした。今だけで、またすぐに離れていってしまうという不安。一緒に楽しい会話ができるという期待で心の中がぐちゃぐちゃでした。そんな気持ちとは裏腹にその友達は決して私を裏切ることはなく、一人にすることはありませんでした。

そんな経験から、私が提案をし、他の役員が快く賛成してくれてこの木が生まれました。

この木は、全校生徒が友達のいいところを見つけて言葉であらわすことによって、つながりや絆を深めてほしいという思いで取り組みました。

葉っぱを配り、書き始めた時、クラスの皆が真剣に書く姿を見ることができ、さっきまでの不安が一気に消えていきました。さらに、集まった葉っぱを、皆ではった後、その木を友達と一緒に見ている多くの人々の姿を見て、私はとても嬉しく、やってよかったなと思いました。また、この木を通して一人でも多くの人が、心を通わせていくことが大切なんだと感じました。私はもう二度と苦痛な日々は味わいたくありません。他の人にも味わってほしくはありません。だからこそ、一人一人が、心を傷つけたり、悲しませたりすることがないように、相手の気持ちを考えて、言葉を使い、行動してほしいと思います。

田鶴浜中学校では、友達の木がどんどん成長しています。皆さんの心の中にも友達の木を育てようではありませんか。

健民運動紹介・奨励コーナー

◇健民運動表彰式

日 時 平成22年11月28日(日) 11:30～12:00
場 所 石川県庁行政庁舎19階展望ロビー 交流コーナー
表 彰 ふるさとのツバメ総調査表彰式
平成22年度「家庭の日」絵画・ポスターコンクール表彰式

◇花いっぱいのつどい

日 時 平成22年11月28日(日) 14:00～16:00
場 所 石川県庁行政庁舎19階展望ロビー 交流コーナー
表 彰 花いっぱいコンクール表彰式
審査員講評
優秀花壇の紹介
優秀団体等による体験発表
花づくり相談コーナー

*つどい終了後、事業記録集と花壇の写真パネルを進呈します。

◇NPO法人いしかわ自然体験支援隊の活動報告

NPO法人いしかわ自然体験支援隊理事長森江章さんより次のような報告がありましたので、お知らせします。

NPO法人いしかわ自然体験支援隊は、9月26日(日)石川県青少年総合研修センターにおいて、地域力をアップする地域コーディネーターに必要なスキルを学ぶワークショップ「地域コーディネーター養成講座」を開催しました。

参加者は3団体10名でしたが、地域や自分たちの問題に真剣取り組まれ、大成功に終わることができ、次回はもっと多くの方に参加してもらいたいということでした。



<課題や問題を洗い出す参加者>

11月の健民運動カレンダー

(H22.10.23現在)

11/7(日) 9:00～

第30回北陸放送旗・協会長杯石川県ゲートボール選手権大会兼第26回全国選抜ゲートボール大会石川県大会
会場：小松ドーム(小松市)
主催：石川県ゲートボール協会

11/14(日) 9:00～

第3回金沢市3人制ゲートボール大会
会場：健民スポレクプラザ ゲートボール場(金沢市)
主催：金沢市ゲートボール協会



<シロシキブ>

- 11/ 27(土) 13:00～
第16回子どもと本との出会いを求めて
会場：柳田教養文化館(鳳珠郡能登町)
主催：石川子ども文庫連絡会
- 11/ 23(火) 9:00～ (最終日は16:00まで)
花いっぱいコンクールパネル展示
28(日) *ふるさとのツバメ総調査、家庭の日絵画・ポスターコンクールの作品展
示は12月2日(木)まで
会場：石川県庁行政庁舎19階展望ロビー
主催：健民運動推進本部
- 11/ 28(日) 11:30～12:00
ふるさとのツバメ総調査表彰式・家庭の日絵画・ポスターコンクール表彰式
会場：石川県庁行政庁舎19階展望ロビー
主催：健民運動推進本部
- 11/ 28(日) 14:00～16:00
花いっぱいコンクール表彰式
会場：石川県庁行政庁舎19階展望ロビー
主催：健民運動推進本部



県民ボランティアセンターだより

* 収集物(10月分) * <使用済み切手>

学校指導課、県民交流課、廃棄物対策課、障害保健福祉課 計4件

ご協力ありがとうございました。ご提供いただきました使用済み切手、書き損じはがきにつきましては、さまざまな支援を必要としている人々に役立てていただいております。ぜひお寄せください。

NPO会計・税務ゼミナール(後期)開催のお知らせ

日々記帳から決算、税のことまで、NPO会計・税務の「実務者向け」徹底演習型のセミナー(全3回)を開催します。

開催日時 ①11月13日(土) ②11月20日(土) ③11月27日(土)
(時間はいずれの日も13:00～17:00)

開催場所 石川県地場産業振興センター本館 第7研修室

参加費 無料

※ 申込方法など、詳しくは下記までお問合せください。

(財)石川県県民ボランティアセンター

〒920-0962

金沢市広坂2丁目1番1号 石川県広坂庁舎 4階

tel:076-223-9558 fax:076-223-9559

e-mail:e130500a@pref.ishikawa.lg.jp

薫風

「越中五箇山自然教室」

(財)石川県ユースホステル協会 理事 新保 雄希

猛暑の8月下旬。当協会恒例の夏期事業の一つ「越中五箇山自然教室」も今回で第37回目の開催となり、参加者の小中学生58名と引率スタッフ23名が富山県南砺市五箇山合掌の里にて、実りある2泊3日の宿泊体験に臨みました。

この「越中五箇山自然教室」を含め、(財)石川県ユースホステル協会では「旅」をコンセプトに、年間を通じて青少年の健全育成を目的とした事業を開催しています。能登半島をフィールドに海やプールを満喫しながら能登漁火ユースホステルに宿泊する「サマーホステリング」や、初めての野外宿泊も安心して体験できる金沢ユースホステルでの「ファーストキャンプ」など、様々な体験を参加者の子ども達が楽しめるよう、またそこに新たな学びや発見が伴うよう工夫しながら企画・準備にあたっています。

「越中五箇山自然教室」の引率スタッフは、全てボランティアの学生や社会人で構成され、事前に救命救急講習や協会独自のスタッフ講習を受講し、子ども達に怪我や事故の無いよう、リスクマネジメントには細心の注意を払っています。

春先から重ねた毎週1回の企画会議では学生が中心となって積極的に子ども達が楽しめるようなアイデアを話し合いました。

学業やアルバイトの合間を使い、子ども達に情熱を注ぐ若いボランティアの力、そしてその眼差しに明るい将来の兆しを感じずにはられません。

事業当日。金沢からバスにて山を越え合掌の里に到着すると、まず、緑深い山間に歴史の重みを備えた合掌造りの連なりが子ども達の心を掴みます。

小学生から中学生まで年齢の垣根を超えた集団生活は一人ひとりの自立、そして互いへの関心と理解、協調を必要としますが、子どもたち自身が会話を中心に、衝突や調和のなかで支え合い、協働して生活を営むことが時間を追うごとに自然となっていきます。

スタッフから子ども達に言葉で伝えられることは限りがありますが、テント設営、野外炊飯、キャンプファイヤー、フィールドワーク、ナイトハイク、ネイチャークラフトなど全身で体験しながら、自然や歴史への興味関心、仲間との絆、家族への感謝の心を存分に育んでくれたと確信しています。

38年目を迎える来年度以降も、学校教育では学ぶことのできない「旅」でしか得る事のできない体験を、より多くの子ども達と、情熱溢れるボランティアスタッフが共に創造できるよう尽力していきたいと思えます。



<宿泊体験：富山県南砺市五箇山合掌の里>

毎月7日は「健康の日」です。
～歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう。～



毎月第3日曜日は「家庭の日」です
～ 家族とのふれあいを大切にしましょう ～